

プラスチック成形で家電から 自動車産業へ。先読みと挑戦する 姿勢で逆境に打ち勝つ

海外勢が猛烈に追い上げて来ているとはいえ、品質の高さで依然、世界をリードする日本の射出成形技術。特に、家電製品や自動車のメーターまわりなどは、高い外観品質が要求されるうえに、新製品の開発やモデルチェンジにあわせ、サプライヤーは常に柔軟な対応力を求められる。そのなかであって長浜市に拠点を置く原馬化成株式会社は、国内一流メーカーとの太いパイプを築き、業績を伸ばしてきた。時代の変化を読む先見性とリスクを恐れず挑戦する積極姿勢で、一歩先を歩み続けている。



原馬化成株式会社

- 代表者/代表取締役 原馬良典
- 従業員数/50名
- 住所/滋賀県長浜市西上坂町南庄293-1
- 創業/1980年
- 業務内容/プラスチック成型加工、プラスチック塗装印刷加工
- TEL / 0749-63-8989
- URL / <http://www.harauma.com>



外観の品質基準が非常に厳しいといわれるソニー製品を長年、手掛けてきた。



射出成形機が並ぶ工場内。



原馬化成株式会社

代表取締役

はらうま よしのり

原馬 良典さん

何度もの危機を乗り越えて

—24歳で起業されたそうですね。

生まれ育った長浜を離れて大阪の企業に就職したあと、親戚が経営するプラスチック製ボトルケースの製造メーカーに転職しました。電気畑の出身でしたが、機械のこともわかるだろう、ということに請われて移ったのですが、直後にオイルショックで経営が悪化し、倒産。妻子もいましたから、再スタートするなら自分で事業を始めようと決意したのが24歳の春、1976年のことです。成形機を買ってきて、妻と二人で樹脂成形の仕事をはじめました。遠方へも営業に足を運び、パナソニックの掃除機やダイキンのエアコン、東芝の冷蔵庫などの部品を受注できるようになって順調に仕事が増え、1985年9月には現在の場所に会社を新築移転し、設備も増やしました。

—その後も順調に成長を？

それが、その同じ月にプラザ合意があり、急速な円高で輸出関連がほとんどストップしてしまったんです。新築した工場も1年にわたって4割しか稼働せず、貯えで食いつなぎました。救世主となったのがソニーのノートパソコン「バイオシリーズ」の受注でした。この大ヒット商品の金型支給を受け、筐体の成形と塗装、パーツ組立までを受託して持ち直すことができました。

ただ、先の景気低迷の折に「人と違うことをやらなければダメだ」と強く感じていたこともあり、自社にノウハウもなにもないなか外注していた塗装の内製化を決め、一貫生産に踏み出したんです。以後、お客様が困っておられることは、やったことがなくても「うちでやれます！」と言えるようにしよう、その姿勢を当社の強みにしようと腐心してきました。それが功を奏し、ソニーのテレビパーツではスイッチの成形から印刷までを手掛け、海外で製造したデジタルカメラの筐体検査も担当するなど、ソニーが売上の8割を占めるまでに受注と信頼を得ることができました。

技術力を基礎に、開発へ

—自動車業界への進出はいつから？

ソニーの生産が海外に切り替わるという情報を早いうちからキャッチしていたので、営業人員を思い切って既存部隊と新規部隊の二つに分け、新規顧客の開拓に力を入れました。すぐに業績は上がりませんでした。いち早く対応していたおかげでバブル崩壊やリーマンショックも乗り切ることができたと感じています。

そのなかで積極的に顧客開拓を行ったのが自動車産業でした。ティア1やティア2と呼ばれる上位サプライヤーでない受注は難しいなか、なんとか食い込むことができたのは、外観品質基準が格段に厳しいといわれるソニー製品を手掛けてきた実績があったからだと思います。かつてクルマの内装部品は、さほど外観品質が求められなかったのですが、顧客のニーズが変わり、自動車業界の変化にうまく当社のノウハウが合致したといえます。現在は自動車関連部品が売り上げの8割に上っています。



挑戦する姿勢から生まれた、高光沢仕上げの自動車の内装部品。

—いま取り組まれていることは？

炊飯器の操作パネルなど、曲面形状のPETフィルムを挟み込んでプラスチック部品を成形する「インサート成形」を以前から手掛けているのですが、現在は成形機の横から人が手でフィルムを金型に挿入しています。これが大変ズレやすく不良品になってしまうため、いかに不良率を下げるかが課題でした。そこで、人の動きを解析し、ロボットに代替させる技術を開発したいと考え、それがサポイン事業※に採択されました。

これに取り組むまで産業支援プラザさんとは御縁がありませんでした。実をいうと役所のお堅いイメージがあって避け

ていたんです(笑)。いざ依頼してみると、気さくに親身になっているんなら角度から相談に乗ってもらえ、印象はがらりと変わりました。プラザの支援で滋賀県工業技術総合センターや龍谷大学ともつながりが生まれ、サポインの開発期間が3年のところ2年半で実用化にこぎつけることができました。まさに産学官連携がうまくいった例だと思います。また、地域経済の中心的な担い手として経産省が選定する「地域未来牽引企業」にも選ばれ、信用とともに取引先も増え喜んでます。



PETフィルムのインサート工程の自動化に取り組み、実用化にこぎつけた。

—今後の展望をおきかせください。

サポイン事業で開発した技術については自動車の内装への応用を考えています。家電と異なり、車内はたいへん高温になったり低温になったりするため、耐久性についてあと少し検証が必要ですが目処は立ちました。電気自動車の普及や自動運転の実用化が進むなか、今後、クルマは運転性能の競争から、「乗ったときの楽しさ」が重視されるようになるでしょう。インテリアに付加価値をつける時代になることを見越し、差別化にチャレンジしていかなければなりません。

自動車の内装部品の高光沢塗装についてお客様から相談をいただいたときも、難しいとはわかっていましたが、ダスト除去の空調に設備投資してトライしました。また現在、専務を務める息子が中心となって電気自動車用部品の素材開発にも取り組んでおり、行く行くは金型も内製化して、金型から成形、加工、組み立てまでを一貫してできる体制を整えたいと考えています。

新型コロナウイルスによる経済打撃も表面化していますが、他社に先駆けて開発してきた技術を武器に、困難を乗り越えていきたいと思っています。

※サポイン事業

戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン・インダストリー、通称「サポイン事業」)は、デザイン開発、精密加工等の特定ものづくり基盤技術12分野の向上につながる研究開発、試作等の取り組みを、国が支援する制度です。産業支援プラザでは、本事業に挑戦する企業等のプロジェクト構築から公募申請、および事業管理までの支援を一貫して行っています。

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ
連携推進部 ものづくり支援課 担当/加藤(慎)

☎ 077-511-1414 ☎ 077-511-1418 ✉ shin@shigaplaza.or.jp